



《学力調査》

## 令和元年度 全国学力・学習状況調査から

美作市立 勝田小学校



※結果の分析 (○できている ●できていない)

### 【国語】

- 全国や県に比べてよかったのは、「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述のしかたをいくつかの選択肢から選ぶ」と、「目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」ことの2項目でした。
- 平均正答率は全国に比べ11.8%、岡山県に比べ12%低い結果でした。  
無回答率が高い問題が多く、特に相手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることが苦手で、無回答率も一番高かったです。  
漢字では「かんしんをもってもらいたい」の「関心」が書けたのはわずか6%でした。同音異義語の理解に課題があります。  
目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことが17.6%と2番目に低い正答率でした。

### 【算数】

- 全国や県にくらべよかったのは、図形の中から台形を選ぶこと(+1%)と、350—97について、ひく数の97を100としたときの計算の仕方が分かること(+2%)でした。
- 平均正答率が全国に比べ8%、岡山県に比べ9%低い結果でした。  
国語に比べ無回答率は低くなっています。  
棒グラフから、1人あたりをもとめ、その理由を説明すること(-20%)や、同じく棒グラフから基にする量の何倍になっているかを考えること(-17%)、ともなって変わる2つの数量を選ぶ(-17%)等、数学的な考え方を活用する問題に課題があります。

### 《学習状況調査》

- 「先生は間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」「学校のきまりを守っている」「いじめはどんな理由があってもいけない」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、話しあったりする活動に取り組んでいる」「算数の勉強は大切だと思う」はだいたいそう思うを含めて100%でした。  
読書の機会も増え、ほとんどの児童が読書は好きと答えています。
- 一方で、「家の人と学校でのことを話をする」「自分にはよいところがある」「失敗を恐れず挑戦している」「コンピューターなどの活用」などは、全国・県平均に比べて低い傾向にありました。特に新聞を読まない子がほとんどでした。算数の学習が嫌いな子が半数以上いますが、勉強は大切だと思うし、授業の内容も分かると答えています。

### 《学校としての対応・目標》

- ① 学習内容の理解をより確実なものにするため、これまでの課題分析から、子どもたちの「つまずき」を予測し、指導方法を工夫しながら、だれにとっても分かりやすい授業づくりを全学年で行います。(授業のユニバーサルデザイン化・ICT機器の活用)
- ② 学習規律、とくに「聴く、反応する」を徹底して行い、聴き手の育成に取り組めます。
- ③ 国語・算数科で、「問題データベース」を活用し、年5回の特設の補充学習時期設定し、それぞれの学年の習得に向けた学び直しの機会をつくります。また、朝の活動時間や補充学習、家庭学習等においても全ての学年でデータベースを活用し、ふり返り学習を徹底します。
- ④ 家庭学習や読書の充実を図るために、予習・自学週間での宿題提出率100%や読書週間、スマイル読書デーなどを活用し、予習・復習や家族読書を奨励する取組を継続的に行います。
- ⑤ 学力テスト等の結果分析をもとにして、算数科の各学年の弱点克服を図り、また、国語科では「説明する力」「読み取る力」の向上に向けた授業づくりを推進します。

※以上のような学校の指導意図をご理解いただき、ご家庭でもご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。